

「大地震から学んだこと」

岩手県 一関市立滝沢小学校 5年 ^{すがわら りょうが}菅原 綾河

「みなさん、岩手・宮城内陸地震を覚えていますか。」

と、先生が話し始めました。平成20年6月14日、午前8時40分。その地震は、いきなりおそってきました。岩手・宮城内陸地震です。ぼくは、その時幼稚園児だったのでよく覚えていませんが、先生が見せてくれた資料から、一関市が受けたすごい被害のことを知りました。特に、土砂くずれで川がせきとめられ、橋が落ちた写真などは、本当におどろきました。

その後、ぼくたちは磐井川砂防探検隊というイベントに参加し、実際の現場を見に行くことになりました。

6月19日、いよいよ出発当日。あいにくの雨でしたが、活動は中止にならなかったのでほっとしました。バスの中で、5年前とどれだけ変わっているのかなと思いました。

まず始めに、天然ダムを見ました。天然ダムは、大規模な地すべりが川をふさいで、大きな水たまりになったところですが、そこはすでに大きな水路ができていて、川が流れていました。実際の場所を見ると、このダムを作った山くずれの土砂を取り除くのに、どれだけの苦労があったかが分かります。この土砂をとらなかったら天然ダムから水があふれ、道路や家や田んぼが流れてしまったことでしょう。そんな天然ダムがこの磐井川に数ヶ所あり、水を流そうと昼も夜も作業したという話を聞いて、本当におどろきました。

次に、地震で落ちた祭時大橋を見ました。地面が11メートルも移動したことで、橋げたがずれ、土台からはずれてしまって落ちたのでした。地面がずれるなんて考えたこともないぼくは、地震のすごさを実感しました。新しくできた祭時大橋は、よりがんじょうなコンクリートでできていると聞きましたが、地盤そのものが心配なため安心はできないということでした。どんなにがんじょうに作っても、こんなに大きい鉄の橋でもくずれ落ちるかもしれないなんて、自然の力ってすごいなあと思いました。

その次に、完成したばかりの砂防ダムを見ました。砂防ダムは、土砂災害を防ぐためのものです。例えば、土砂災害の一つの土石流は、くずれた土砂が、川の水などと混ざり合い、一気に下流へおし流される災害です。5年前の地震では、18ヶ所以上もの土石流が発生したようですが、砂防ダムによって勢いを弱くしたり、土石流を止めたりすることができます。それと、上流からの岩や土砂が流れて川の中にたまり、大雨などで下流へ一気に流れださないよう固定する働きがあります。階段のようにダムを作ることで、流れを弱くするこの砂防ダムのしくみを知り、砂防ダムは土砂災害から人々を守る、とても大切なものだということが分かりました。砂防ダムの下流には、照井せきへの水のとり入れ口や、名勝、巖美溪、さらには浄水場などがあり、私たち一関市民にはなくてはならない川です。そんな川をこの砂防ダムは守っているんだということを改めて学びました。

最後に、あいぽーとに行きました。あいぽーとは、北上川と、この日見えた磐井川に関する様々な情報を提供し、河川に関して学習することができる施設です。以前にも来たことがありましたが、その時は、あまり深く考えてはいませんでした。ですが、今日、施設の説明を受けたことで、その役割の大切さを実感しました。

二年前に起こった東日本大震災は、多くの町をこわし、多くの人命を失いました。その復興のために、多くの人たちが協力していますが、ここ一関でも、努力は今でも続いていることを知りました。ぼくは、今回学んだことを多くの人たちに知ってもらいたいなと思いました。